

トマト周年生産の実現に向けて ～独立ポット耕の更なる進化～

— 野菜・果樹部 —

当センター野菜・果樹部にトマトの周年栽培温室が整備され、夏期高温期の収穫が可能な夏越し作型の開発を目的とした実証栽培を行っています。

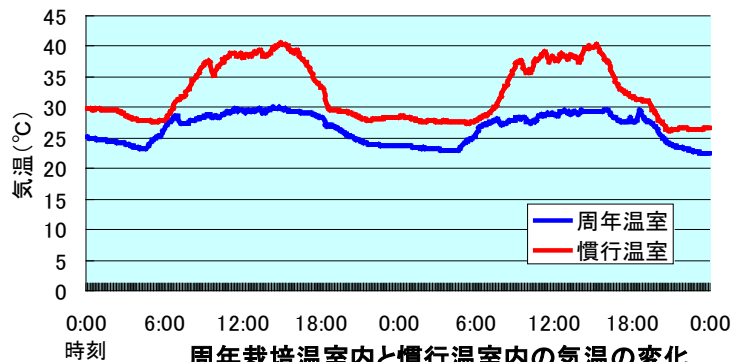
この温室には、揖斐川工業（株）と共同開発を進めているハンギングガター方式による独立ポット耕システムを核として導入し、夏期の高温対策としてパッドアンドファン冷房やヒートポンプ冷房、日射量に応じた遮光制御装置が装備されています。これらの高温対策技術を利用することにより、夏期の日中でも温室内を30℃以下に保つことが可能でした（右グラフ）。

ただし、実際に夏越し栽培を行ってみると想定外の問題も見出されたことから、現在、次年度に向けて解決策について検討しています。

夏越し作型と既存の作型を組み合わせることにより、時期ごとの収量の変動の少ない、トマトの周年生産の実現を目指していきます。



ハンギングガター方式の栽培ベンチとパッドアンドファン冷房
(6月25日撮影)

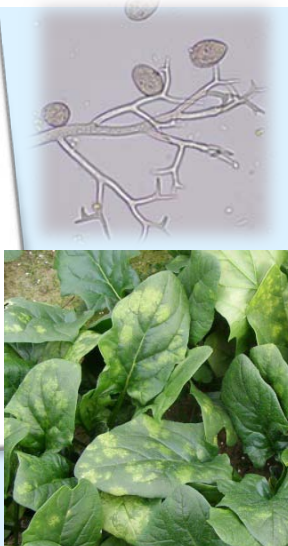
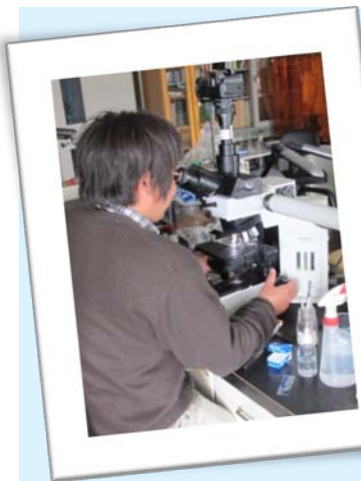


周年栽培温室内と慣行温室内の気温の変化

(8月26日～27日)

ホウレンソウの重要病害

「べと病」対策に取り組んでいます — 環境部 —



ホウレンソウべと病の病原菌(上)と病徴(下)

べと病は、ホウレンソウの重要病害です。最も有効な対策は抵抗性品種を利用することですが、近年、べと病菌の新しいレース（病原菌の系統）が次々と発生しており、岐阜市では、2010年1月にレース1～7の抵抗性品種でべと病の発生が確認されています。

そこで、現在、ホウレンソウべと病菌のレースの検討、べと病菌の新レースに対する抵抗性品種の探索および新規登録された殺菌剤を用いた防除技術の開発に取り組んでいます。

安全性の高い農薬開発

アメリカシロヒトリ防除は微生物農薬で

— 生物機能研究部 —

街路樹など生活現場に近く農薬散布ができない箇所
所で被害が大きく、また果樹類の害虫でもあるアメリカシロヒトリに対する微生物農薬を開発しています。

生物農薬の一つである微生物農薬は、害虫の天敵微生物を製剤化したもので、特定の昆虫だけに感染する非常に安全性の高い資材です。

微生物農薬の実用化に向けて、自然界より分離した殺虫効果の高い天敵微生物の効率的な生産方法や野外での使用方法について検討しています。



カキの葉を食害するアメリカシロヒトリ幼虫



天敵微生物により死亡した幼虫



ぎふ清流国体を花いっぱい！！

国体推奨花の栽培法の確立

— 花き部 —

2012年に開催するぎふ清流国体・清流大会に向けて、国体推奨花の栽培マニュアル作りを進めています。

推奨花は、国体の開催で全国から県内を訪れる人々を出迎えるのにふさわしい花として10品目が選定され、開催年には県内各地域に花苗が配布される予定です。現在、農業高校、国際園芸アカデミーと連携して栽培試験を進めており、栽培マニ

ュアル作りに必要なデータを収集しています。

また、国体会場周辺の花飾りに、県内企業と共同で開発した底面給水トレーの利用（写真）を提案することも考えています。



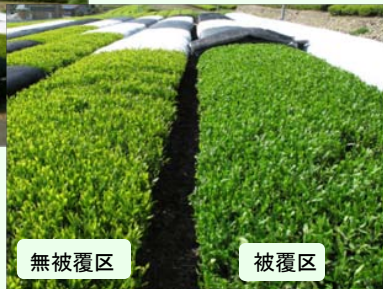
茶の直がけ被覆栽培体系の開発

新しい需要の開拓をめざして

— 作物部 池田試験地 —



直がけ被覆栽培試験



無被覆区

被覆区

被覆による葉色向上

近年、茶生産において「かぶせ茶」需要が高まっており、平坦地域を中心に「てん茶（抹茶原料）」を組み合わせた直がけ被覆栽培が行われています。現地では一番茶だけでなく二番茶や秋冬茶に連続被覆を行う場合もあるため、樹勢低下による収量や品質への影響が懸念されています。

この対策として、①生育障害の再現と診断、②被覆資材の検討、③収量、品質の維持・向上が可能な被覆体系と高位安定生産技術の開発に取り組んでいます。

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.cc.rd.pref.gifu.jp/g-agri/index.html>

南濃試験地

〒503-0651 海津市平原1165

Tel 0584(53)0175

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837